

根室市長 長谷川 俊輔 様

2018年7月19日
日本共産党 根室市委員会
委員長 橋本 竜一
日本共産党 根室市議会議員団
団長 鈴木 一彦

日米共同訓練（ノーザンヴァイパー）について（要望）

今年7月から9月にかけて、自衛隊北部方面隊と米海兵隊との共同訓練（ノーザンヴァイパー）を行うことが公表されています。これに関し、今月6日に北海道新聞等が「防衛省がオスプレイを使った訓練を矢臼別演習場でも実施する方向で調整している」と報じました。

MV-22 オスプレイは、2016年12月に沖縄の名護市沿岸で、また、2017年8月にオーストラリア沖で墜落事故、同年9月にはシリアでも事故を起こしています。報道によると10万飛行時間あたりの重大な事故率は3.24と、これは米海兵隊機全体の事故率2.72を上回り、普天間飛行場にオスプレイ配備がはじまった2012年以降最悪の事故率とされています。

オスプレイの訓練を実施することは、市民生活の安全・安心と酪農をはじめとする地域の産業活動にも悪影響を及ぼしかねません。また北海道とりわけ道東地域でこのように日米の共同訓練を拡大することが、領土問題めぐる日米外交にも影響を与えることを危惧します。

朝鮮半島情勢において4月の南北首脳会談、そして6月に史上初の米朝首脳会談が開催されたように、対立から対話への転換により、戦争と核の脅威から抜け出す道が開かれたことはまさに日本国憲法が掲げてきた平和主義の姿です。日本の平和主義、基本的人権、そして地方自治と相反する米軍基地問題とその軍事訓練のあり方が問われています。

したがって近隣の自治体に矢臼別演習場がある本市としても、以下のとおり政府に対し、情報開示や安全対策など必要な措置をとるよう強く求めることを望むものです。

記

1. 矢臼別演習場でのオスプレイ訓練はしないよう関係機関に働きかけるとともに、住民の安全を確保するため、演習場周辺自治体との共同をすすめること。
2. オスプレイ訓練を含め、日米共同訓練に関する情報を全面的かつ早急に公表するよう関係機関に働きかけること。
3. 把握した情報はすみやかに市民に伝えるよう努めること。
4. 日米共同訓練について、在沖縄米海兵隊移転訓練（沖縄県道104号線越え実弾射撃訓練の分散・実施）と同様、問い合わせや苦情等に対応できる現地窓口を設置するよう関係機関に働きかけること。

以上

関係各位

2018年7月19日
日本共産党 根室市委員会
委員長 橋本 竜一
日本共産党 根室市議会議員団
団長 鈴木 一彦

日米共同訓練（ノーザンヴァイパー）について根室市長に要請

大変お世話になっております。以下の点について、ご報告いたします。

本日、日本共産党根室市委員会と党根室市議会議員団は、長谷川俊輔根室市長へ、別紙の通り「要望書」を提出しました。

マスコミ報道を受けて、7月10日に「矢臼別平和委員会」が別海町長に要請を行っております。私たちとしてもそれらの団体と連携しながら、各自治体・首長に対し要請を行っているものです。

要請に対して長谷川市長は、「今年度は米海兵隊の移転訓練に関する花咲港の陸揚げについては、サンマ漁など最盛期と重なる日程のため、釧路港からの陸揚げの方向で調整していると聞いている。

また要望書のオスプレイなどの訓練への対応は、矢臼別演習場周辺4町と道による矢臼別演習場関係連絡会議の協議内容を尊重し、状況に応じて関係自体と連携し、対応を検討していきたい」

等と、答えています。

以上